

広 報

# 家畜衛生ますだ

令和5年12月

発行・編集

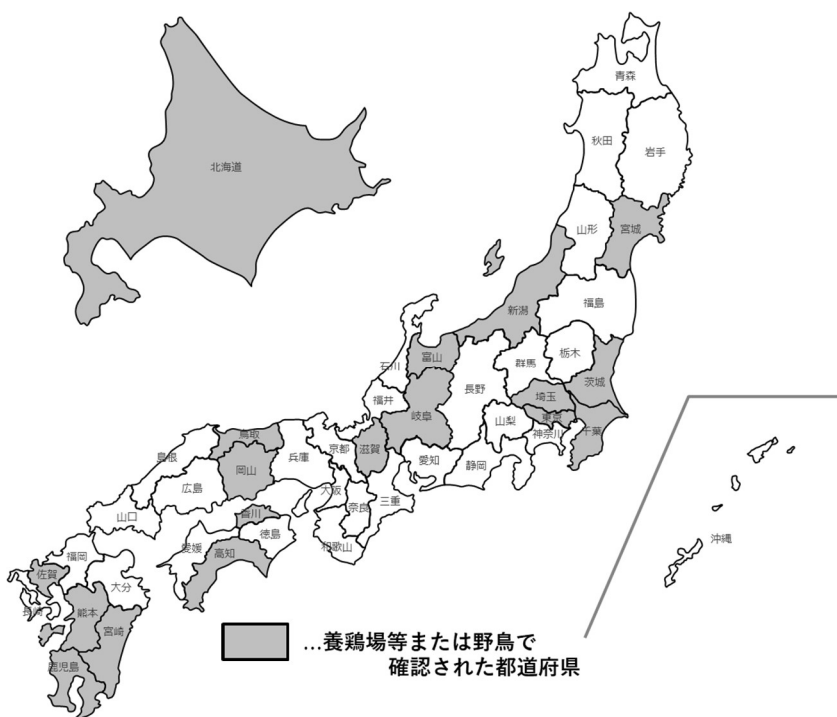
益田家畜保健衛生所（西部農林水産振興センター益田家畜衛生部）

〒698-0007 益田市昭和町13-1 益田合同庁舎1階

TEL 0856-31-9730 FAX 0856-31-9739

## 高病原性鳥インフルエンザについて

今シーズンも全国で高病原性鳥インフルエンザの発生が報告されています。令和5年10月4日に北海道で回収された死亡野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、11月25日には佐賀県の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生しました。12月18日現在、養鶏場では5県5事例の発生、野鳥では17都道県66事例で高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されています。



家きん飼養者の皆様には、まだまだ気の抜けないシーズンが続きますが、改めて飼養衛生管理基準の遵守徹底をよろしくお願いいたします。

## 飼養衛生管理基準の巡回を行います

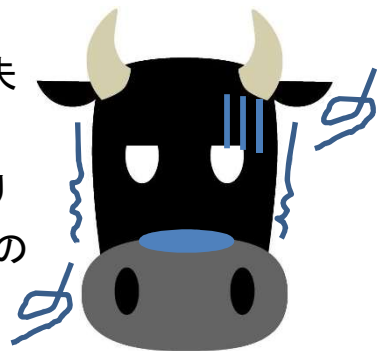
飼養衛生管理基準の遵守状況の確認のため、繁殖巡回に併せて管内の牛飼養農家全戸について巡回を実施します。日ごろからご注意いただいているところとは思いますが、①衛生管理区域の入り口に看板を設置しているか、②消毒槽を設置しているか、③カレンダー等で来場者を記録してあるか、の3点について改めてご確認ください。

また、飼養している家畜の種類・頭数などを毎年1回、定期報告書にて報告していただくことになっておりますので、巡回の際に併せて確認いたします。例年、メインで飼養されている家畜以外（羊、ヤギ、少羽数の鶏など）の報告漏れがありますので、こちらについても漏れの無いようご注意ください。

繁殖巡回の対象ではない農家の皆様については、別途ご連絡を差し上げますので、ご対応いただきますようお願いいたします。

# 冬場の子牛の管理について

今年も寒さの厳しい季節となりました。子牛の寒さ対策は大丈夫でしょうか？**子牛は成牛と比べて寒さに弱く**、特に哺乳子牛は13℃以下から寒さを感じ、**9℃以下**になると体温維持のためにより多くのエネルギーを必要とします。寒冷対策には安価に行えるものもあるので、自身の農場にあった寒さ対策を取り入れ、寒い冬を乗り切りましょう！



## なぜ寒さに弱いのか？

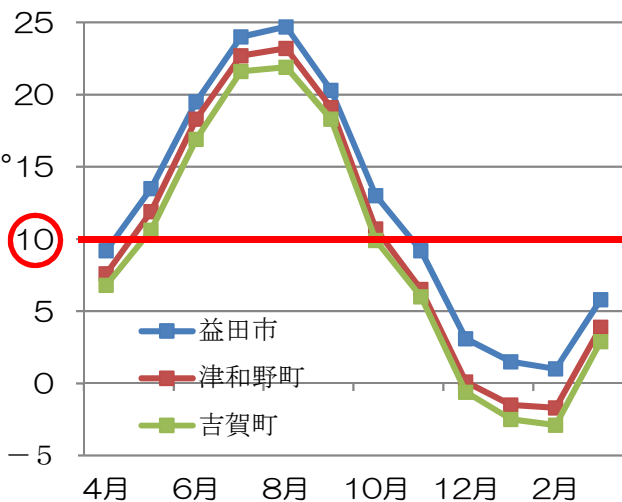


- ・ 体重当たりの表面積が大きく熱を奪われやすい。
- ・ 体脂肪が少ない。
- ・ 第1胃が未発達なので発酵熱の発生が少ない。

## どのような影響があるのか？



- ・ 増体の遅延
- ・ 免疫力の低下
- ・ 下痢や肺炎等疾病の増加



地域別の日最低気温の推移（2022年）（出典：気象庁HP）

## 簡単にできる寒さ対策の例

### ●ベストやネックウォーマーの着用

ネックウォーマーは市販されている人間用の物で大丈夫です。体からの熱放出を防ぐことで、子牛の消耗が少なくなります。

### ●湯たんぽやヒーターの設置

不要になったポリ容器に60～80℃のお湯を入れてハッチの中に置くだけでも有効です。ハッチ内の温度を上げるだけでなく、子牛が触れることで体温を上げる効果もあります。

### ●敷料をたっぷり敷く

冷たいコンクリートの床や凍結した土は、子牛のお腹を冷やし体温を下げる原因となります。敷料をたっぷり敷き、底冷えを防止しましょう。



## 編集後記

今年もあと少しで終わりです。今年を振り返ってみて特に記憶に残っていることは、自宅でのカメムシとの戦いです。多いときは1日で20匹位捕まえました。（門脇）